

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表  
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満  
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧  
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 立命館守山高等学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中高一貫教育  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )

住所 〒524-8577  
滋賀県守山市三宅町 250 番地

E-mail : \_\_\_\_\_

Website : http://www.ritsumeai.ac.jp/mr

児童生徒数：男子 433 名 女子 481 名 合計 914 名  
 児童・生徒の年齢 15 歳～18 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

## 4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

### 1. SSH（スーパーサイエンスハイスクール校）としての取り組み

#### ①水環境フォーラム（8月19～22日）

本校は2010年2月に「高校生国際みずフォーラム in 湖国・滋賀（以下IWF）」を開催、世界8カ国20校の高校生たちと「世界の水問題にどう関わるか」をテーマに、「水と科学」「水と生物」「水とくらし」の視点から研究発表を行い、共同宣言を世界に発信し、高い評価を得た。本校ではこの取り組みを独自に発展させ、本年度は「水環境フォーラム」を実施。全国から7校、海外からも6校、全体で約150名が集い、各校の研究発表や琵琶湖での湖上実習、地域連携のあり方について交流を深めた。

\*海外参加国：アメリカ・韓国・タイ・インドネシア・台湾

### 2. 公民科 現代社会（高校1年生必修） 2単位

#### ①夏季休暇中課題として、JICA 中学生・高校生エッセイコンテストに全員が出品。

\*以下の賞を受賞

- ・国際協力特別賞（1名）
- ・関西国際センター所長賞（1名）
- ・学校賞

### 3. 総合学習 高校2年生（アカデミアコース）海外研修（事前・事後学習を含む）

#### ①フロンティアスピリット・プログラム 研修地：シドニー、バンクーバー

派遣先での英語研修とその活用を目的とした参加体験型の活動を通して異文化交流と実践的語学力を身につける。また旅程の一部を計画させることで企画力や実行力を養う。

#### ②アカデミックリサーチ・プログラム

##### 1) インターンシップ 研修地：シカゴ、シアトル

派遣先でのスクーリング後、海外現地企業等でインターンシップ（就業体験）やリサーチを行い、グローバルな視野と実践的英語力を身につける。

##### 2) フィールドワーク 研修地：タスマニア

派遣先でのスクーリング後、環境等をテーマとしたワークショップ（調査・研究・発表）を体験し、英語によるアカデミックスキルズを身につける。

#### ③国際ボランティアプログラム 研修地：バンコク

国際 NGO ハビタット・フォー・ヒューマニティーの活動（住居建築）を通じて、「貧困」が家族や地域に及ぼす影響について学び、自分たちにできることを考えるとともに、現地の自然や文化・習慣・歴史・社会制度に関する認識を深める。

\* なお、国際ボランティアプログラム（バンコクコース）の活動は、2014 年度、以下の大会で実践報告を行っている。

・ユネスコスクール世界大会（全国大会・岡山）にて、優良実践事例報告（第 21 分科会）を実施。『ESD 優良実践事例集』にも掲載されている。

・ワンワールドフェスティバル（大阪）にて、「国際協力 想いをカタチにー海外研修バンコクコースの取り組みを通じてー」と題して高等学校における ESD 教育のあり方と卒業生のその後の活動について報告をした。

#### 4. 総合学習 高校 1 年生（フロンティアサイエンスコース）海外研修（事前・事後学習を含む）

研修地：ベトナム

ベトナムの医療・福祉施設での研修を通して、自分たちができることを考え、行動する力を養う。また、現地校数学科の高校生との共同学習を行う。

#### 5. 学校設定科目「国際協力」（高校 3 年生必修） 1 単位

①計 4 回にわたり、国際協力の第一線で活躍する各分野の経験者を招き、講演会を行った。

講演団体：NGO フリーザ・フィールド・イン・ジャパン／NPO 法人 AWPS／外務省 ODA 出前講座／JICA 関西／NPO 法人ユナイテッドアース

\* うち 1 回は JICA 関西を訪問し、隣接する「人と未来防災センター」も見学。

②「自分たちにできる国際協力」と題し、各グループで国際貢献プランを策定しプレゼンテーションを実施。

③ボランティア活動の実施

授業を通じ、ボランティア活動に取り組みたい有志を募集。2014 年 12 月 22 日（月）～25 日（木）にかけて、3 年生 36 名で宮城県でのボランティア活動を実施。今年度で 4 回目の実施となる。

活動場所：南三陸町、石巻市

活動内容：開成団地訪問、海岸清掃、農業支援

④上記の学びを「アカデミックプレゼンテーション（校内学術成果報告会）」で報告。

#### 6. 学校間国際交流

①アメリカ Shorecrest 高等学校

7 月 11 日 生徒 13 名 教員 2 名

授業参加と部活交流。本校生徒の家庭でのホームステイ

②アメリカ ミシガン州（高校生選抜 8 名）教員 2 名

8 月 19 日～29 日

「水環境」をテーマに理系の協働学習、文化交流

本校の「水環境フォーラム」への参加

③マレーシア SEKOLAH HERASRAMA PENCH INTEGRASE KUANTAN

11 月 10 日（月）生徒 11 名 教員 2 名

物理の実験に参加 ロボティクスに関する交流

- ④台湾 国立台中第2高級中学  
2月5日(木) 生徒67名 教員5名  
第1学年レシテーションコンテスト見学・楽器演奏  
部活見学
- ⑤カナダ St. Georges School  
3月23日(月) 生徒20名 教員2名  
部活見学を含む交流活動

## 7. ユネスコ委員会活動（校内生徒有志組織）

- ①外部セミナーへの参加
  - ・JICA 開発教育入門セミナー（6月）
  - ・JICA 国際教育セミナー（7・8月）
  - ・多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー（8月）
  - ・ワンワールドフェスティバル（2月）
- ②ユニクロとのコラボレーション企画「服のチカラプロジェクト」の実施
- ③JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト出品
- ④ワンワールドフェスティバル for Youth  
プレゼンテーション大会出場 上位入賞
- ⑤ユニセフ外貨コイン募金活動

## 8. サイテック部による活動（部活動）

「大川活用プロジェクト」という旧野洲川である大川を「里川」に再生させていく取り組みを地域自治会・守山市・京都大学東南アジア研究所と共同で取り組みを進めた。さらには大川での活動や研究成果を世界に向けて発信し、水環境全般における課題を議論するフォーラムを本校主催で行った。

### <大川における地域貢献>

- ①大川夏休み自由研究室（8月5日）  
地域の子どもたちの体験学習企画に記録係として参加。
- ②大川フォーラム（2月7日）  
地域自治会館で、大川活用プロジェクトの各構成団体からの発表が行われた。本校サイテック部からは、これまでの研究成果と地域の子どもたちと一緒に見える水質浄化の取り組みの提案を行った。生徒がこの取り組みに参加したことで、主体性・自律性の更なる向上がうかがえた。さらには、「地域住民の意見や要望をもっと聞きたい」や「地域の方々との活動をより増やしていきたい」などと言った“自分達の活動の意義”を考え、それに応えるように変容している。社会に貢献する必要性、その喜びを知ることが出来たと考える。  
また地域からも、大川プロジェクトに高校生が関わることを高く評価して頂いている。第3部のパネルディスカッションでは、本校生徒も守山市市長や、自治会長、京都大学名誉教授らとともに参加させて頂いた。高校生として若い世代の代表として、期待頂いている証拠であると考えられる。また、その場で、大川プロジェクトを外部に向けて発信するための方法として SNS などの活用を提案し、守山市市長や市職員の方々を含めて期待する声を多く頂いた。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）